

■2 建学の精神の普及・醸成に関する事項

本学の建学の精神は「浄土真宗の精神」である。浄土真宗の教義は、親鸞聖人によって組織化・体系化されたものであり、その意味で「浄土真宗の精神」を「親鸞聖人の精神」と言い換えることができる。

浄土真宗は仏教の中に位置づけられるが、仏教に限らず、宗教とは、自己の実存と関わり、また自己は如何に生きるべきかという根源的な問題に関わるものである。その中で、仏教は、「正しくものごとを見る」ことを教える。「正しくものごとを見る」ということは「如実知見」といわれるように、「ありのままのすがたをありのままに見る」ということである。自己の価値観に偏執し、誤ったものの見方しかできない我々にとって、なにものにもとらわれない自由なものの見方の存在を知ることが、自我の肥大化の防止に一定の役割を果たす。

近時、宗教の社会貢献の問題が議論されているが、宗教の存在意義の一つに、多様な価値観の提供がある。すなわち、自己の価値観と異なった価値観の存在を知ることが、自己の価値観に対する偏執をやわらげ、他文化の共存に対する認識を深める。また、宗教が個人の精神の安定に多大の寄与を行うことは広く知られている。

このような宗教意義に鑑み、建学の精神の普及・醸成を諮るため、次のとおり独自の宗教行事や出版等の活動を行った。



<講演会>

開催日	講師名	演題
6月8日(火) 大宮学舎 本館講堂	佐々木 閑 氏 (花園大学文学部教授)	多様化した佛教の自律性について ーオウム事件から何を学ぶのか
7月6日(火) 深草学舎 顕真館	一郷正道 氏 (京都光華女子大学長)	真実の私・私の真実
12月15日(水) 深草学舎 顕真館	市川良哉 氏 (奈良大学理事長・名誉教授)	佛教と私
2011年1月13日(木) 大宮学舎 本館講堂	木村宣彰 氏 (大谷大学名誉教授・前学長)	中国における崇仏と排仏 ーなぜ、仏教は排斥されるのかー

<法要・宗教行事>

建学の精神の理解を促すため、学年暦等に定めて全学に浸透させる法要・行事を行った。2010年度より、ご命日法要を時間短縮して昼休み時間に実施し、これを補うため、水曜4講時に「顕真アワー」として勤行・講話の時間を設けた。

- ・朝の勤行（学長法話、伝道部法話を含む）
- ・月例法要（御逮夜法要、ご命日法要、ご生誕法要）
- ・顕真アワー（月1回水曜4講時）
- ・新入生本願寺参拝（4月5日～6日）
- ・降誕会（5月21日）
- ・報恩講（10月18日）
- ・成人のつどい（1月9日）

学生・教職員はもとより地域の方々にも本学の建学の精神を普及させるため、礼拝堂において行われる学内外の著名人による各種講演会を実施した。

- ・公開講演会
 - ・宗教文化講演会（顕真週間に実施）
 - ・教職員のための宗教部特別講座
- 教職員が「建学の精神」を正しく理解するための講話を宗教部長から受けた後、本願寺に参拝し、書院・飛雲閣を拝観した。

<文書による伝道>

礼拝堂等で行われる法話や講演、教職員・学生によるエッセーや心に響く言葉などを活字にして龍谷大学の建学の精神と教学理念を、広く大学の内外に普及するように努めた。

- ・龍谷ブックス（年間2回発行）
- ・宗教部報りゅうこく（年間2回発行）
- ・龍谷大学「建学の精神」／龍谷の伝燈（宗教部ガイド）
- ・宗教部カレンダー
- ・標語ポスター

<礼拝施設の整備>

本学は3キャンパスにおいて、建学の精神を施設の面においても体现するべく、それぞれに礼拝堂を設置し、常時開放している。

- ・大宮学舎 本館（国指定重要文化財）
- ・深草学舎 顕真館
- ・瀬田学舎 樹心館

<その他>

学友会宗教局6サークル（男声合唱団、宗教教育部、伝道部、パイオニアクラブ、仏像研究会、仏教青年会）、親和会、校友会等を通じて、在学生や卒業生、さらには地域社会に対して、龍谷大学の建学の精神への理解を深められるような活動を行った。

- ・花まつり（4月8日） 深草学舎、瀬田学舎
- ・降誕会
- ・顕真週間
- ・仏教活動奨学生（懸賞論文）の募集
- ・結婚式（各礼拝堂にて校友を中心に実施）
- ・物故者追悼法要
- ・新年法要（大宮本館にて実施）